

中学校給食の導入に係る 教育委員会検討会の結果について

(H26. 2)

「中学校給食導入の方向性」

- ◇ 中学校給食を導入する
- ◇ デリバリー給食とする（調理・配送委託方式）
- ◇ 全員給食を原則とする



デリバリー給食とは

☆民間事業者に給食の調理・学校への配送を委託する方式

☆献立作成、食材選定・調達、調理方法の指示は全て教育委員会（栄養士）が行います

●特徴

- ・栄養バランス、食育の推進に優れている
- ・施設整備費が抑えられる、早期導入が可能
- ・配膳、片付け時間が短時間（カリキュラムへの影響少ない）

●課題

- ・適温給食ができない・・・米飯はほんのり温かい、おかずは常温程度
- ・アレルギー対応が困難

給食方式の比較・検討

○次の項目について検証し、7つの観点で給食方式を比較検討した上で総合的に判断し決定！

- ・給食実施校への視察
- ・アンケート調査結果
- ・施設整備費、維持管理費推計
- ・本町の財政状況

観点\方式	自校給食	給食センター	親子方式	デリバリー
①栄養バランス(食育)	○良い	○良い	○良い	○良い
②アレルギー対応	○可能	○可能	○可能	X不可
③食事量の調節	△難しい	△難しい	△難しい	△難しい
④導入までの期間	△長期	△長期	△長期	○短期
⑤法的課題(都市計画法)	○なし	△あり	X不可	○なし
⑥財政的負担	△大きい	△大きい	△大きい	○小さい
⑦学校カリキュラムへの影響	△あり	△あり	△あり	○なし

給食方式別の経費比較

経費\方式	自校給食	給食センター	親子方式	デリバリー給食
初期投資額	4.5億円	10億円	4億円	1,000万円
維持管理費 ／年	3,500万円	8,000万円	3,500万円	3,000万円
30年間経費	20億円	25億円 ※現小学校分差引済	19億円	9億円
備考	2校分	4校分 (小学校含)	2校分	2校分

※給食費は、小学校給食費と同様に、食材購入費分を徴収しますので、給食方式による変動はありません。

デリバリー給食とした理由

- ☆「学校給食の主旨を保ちつつ、早期導入できる最も有効、かつ現実として可能な方法」
- ☆「初期投資額が抑えられるため、他の方式へ転換する場合でも、初期投資が無駄にならず、状況に応じて柔軟な対応が可能」

※自校方式について（小学校実施）

食育の推進や温かい食事など、給食として理想的な方式ということは、教育委員共通の認識でした。しかし、施設整備費・人件費・維持管理費などの財政的課題や建設地の確保、給食開始までに要する期間、学校カリキュラムへの影響などの課題を考慮すると、現段階では実現が難しいと判断しました。

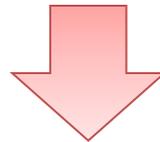
生徒全員の給食実施

◇学校給食の主旨・目標（学校給食法より）

☆児童生徒の心身の健全な発達

※小学校から中学校までの9年間を支える

- ・適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図る
- ・学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養う
- ・我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深める
- ・食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導く



教育の一環として **「生徒全員の給食を実施」**

※アレルギー対応などをやむを得ない事情により、一部家庭弁当との選択制も実施

デリバリー給食について

「デリバリー」という名称のイメージ ⇒ 配達される業者弁当？

☆小学校の自校方式給食同様に

- ・**町栄養士が、栄養バランスを考えて献立を作ります！**
- ・**安全な食材を町栄養士が調達します！**
- ・**委託業者を指導・監督した上で提供される給食です！**

「中学校給食の導入に係る教育委員会 検討会意見書」

- ・ 給食実施校の視察
- ・ アンケート集計結果
- ・ 給食方式別の特徴と課題
- ・ 給食方式別の経費比較
- ・ 大磯町の財政状況 など、検討内容の詳細は…



大磯町ホームページ・大磯町情報コーナーに掲載中！

～「大磯町 中学校給食の検討」で検索～